



SCOR 2020 MEETING

20-22 October 2020

Virtual meeting

Past Annual Meetings

WE ARE

About

Executive Committee

National Committees

Technical Groups

Working Groups

Research Projects

Infrastructural Projects

Capacity Development

Achievements

GETTING INVOLVED

News

Opportunities

Calendar

GUIDESTAR GOLD SEAL OF TRANSPARENCY

2020

WORKING GROUPS

RESEARCH PROJECTS

海洋の仕組みと変動・変化を理解する — Scientific Committee on Oceanic Research (SCOR、海洋研究科学委員会)の活動と 日本の貢献 —

張 勁 (富山大学学術研究部理学系)

原田 尚美 (東京大学大気海洋研究所)

升本 順夫 (東京大学大学院理学系研究科)



SCOR (海洋研究科学委員会)とは？

- 国際学術連合会議 (ICSU; 当時) が1957年に設置した海洋研究に関する初めてかつ唯一の学際的学術組織

1957-58年には、国際地球物理年 (IGY) が実施された。このIGYを契機として、海洋科学の諸問題の解決には真に学際的なアプローチが必要であるという認識が世界の海洋研究者によって共有されることになる。SCORは、その実現のために設置された。この設立段階から、日本人研究者が深く関与していた。

目的: 海洋に関する分野横断的な問題解決のための研究と国際協力の振興

SCORは基礎科学だけではなく、水産や工学系の課題まで海洋に関わる幅広い分野をカバーし、分野間の協力を推進



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」の考え方を先取り



「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」

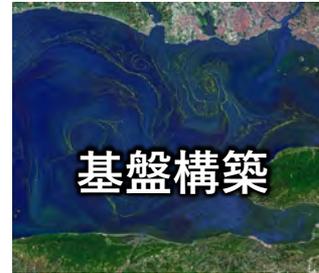
SCOR の活動



焦点を絞った課題
について深く検討し、
その成果を発信

これまでに170のWG活動をサポート

日本人研究者も多数参加



研究・観測・モデリング
等の下支えとなる活動
のサポート

(国際規格や技術開発など)

国内予算の確保が難しいこのような
活動をサポートすることで、海洋科学
研究全体を活性化



大規模な国際研究
プロジェクトの立案・
調整のサポート

これまでに様々な大型プロジェクトに関与

これらのプロジェクトの下で多くの
日本人研究者が育ち、活躍



SCOR 設立当初から、
海洋科学分野での人
材育成に注力

特に、発展途上国の研究者や若手研究者
などが SCOR の活動に参加すること、研究
を活発に行っている研究者らとのネットワー
クを構築することを重視

SCOR : 日本の貢献、日本への影響

● 日本の貢献

- ✓ SCOR **年会開催**: 東京(1970)、札幌(2002)、富山(2019)
- ✓ SCOR **副議長**: 浅井富雄(1988-1994)、角皆静男(1998-2002)、
谷口旭(2002-2006)、田口哲(2010-2014)、
張勁(2018-2022)、升本順夫(2024-現在)
- ✓ SCOR **WG (共同)議長**: 三宅泰雄(WG1)、鳥羽良明(WG101)、
青山道雄(WG147)、野村大樹(WG152)、伊藤彰記(WG167)

➤ SCOR などの国際協力を通じて、日本の学界は海洋科学研究を世界的に牽引する立場になっています

● 日本への影響

- ✓ SCORが立案や運営に参画した国際共同研究やワーキンググループに日本人研究者が多数参加し、**日本の海洋科学研究の振興と普及を促進**
- ✓ **海洋基本法の制定・海洋基本計画の策定・総合海洋政策本部の設置へ貢献**

私たちと SCOR



SCORの活動を通じて、海洋科学の基礎研究や学際的研究は、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための海洋科学の10年」に貢献し、さらには私たちの安定した社会活動の実現に貢献しています。